

CEFR 読解指標に基づいた日本語能力テストの分析

—日本人大学生の受験データに基づいて—

谷 誠司・宮崎 佳典・安 志英・元 裕璟

抄 録

CEFR (Common European Framework of Reference for Languages) の読解能力記述文 (Can-Do Statements : CDS) に基づいて日本語能力テストを開発し, 韓国人日本語学習者 (大学生) 53 名を対象に予備調査を 2018 年 12 月に実施した。このテストの開発過程, 予備調査の実施過程, そして分析結果については我々研究グループが谷他 (2020) で発表した。

谷他 (2020) で報告した韓国人日本語学習者 (大学生) 53 名の結果を必要に応じて比較しながら, 本稿では同じ日本語能力テストを使って日本人大学生 21 名を対象に 2018 年 12 月に実施した予備調査の結果を報告する。

キーワード : CEFR (Common European Framework of Reference for Languages), 読解, CDS (Can-Do Statements), 日本語能力テスト, 日本人大学生, 韓国人日本語学習者

1. はじめに

言語能力の国際的基準である CEFR (Common European Framework of Reference for Languages) に大きな関心が集まっている。CEFR では言語能力を A1 ~ C2 レベルの 6 段階に設定し, 各レベルには何ができるかを示す複数の能力記述文 (Can-Do Statements, 以下 CDS) が記述されている。我々の研究グループでは (DIALANG の) CEFR 読解 CDS の中から A1 ~ B2 レベルにあり, 「必要な情報を探し出す」と「手紙やメールを読む」の下位尺度に該当する CDS に限定して, 「日本語 CEFR 読解指標 (CDS) 推定支援 Web アプリケーション」から CDS との適合度の高い例文を選択し, 日本語読解テストを開発した。また, 開発した日本語読解テストを使って韓国人日本語学習者 (大学生) 53 名を対象に予備調査を 2018 年 12 月に実施し, テストの開発過程, 予備調査の実施過程, そして分析結果について谷他 (2020) で報告した。

谷他 (2020) で報告した韓国人日本語学習者 (大学生) 53 名の結果を必要に応じて比較しながら, 本稿ではこの日本語能力テストを使って日本人大学生 21 名を対象に 2018 年 12 月に実施した予備調査の結果を報告する。

2. 予備調査に使用した日本語能力テスト

Google フォームを利用してテストフォームを作成した。テストフォームはパート1（個人情報等のフェイスシート）、パート2（「手紙やメールを読む」のCDSに対応したテスト項目）、パート3（「必要な情報を探し出す」のCDSに対応したテスト項目）、パート4（テスト項目にどのように解答したかを尋ねるアンケートと自由コメント記述欄）の4つのパートから構成されている。開発の過程など詳細については谷他(2020)をご覧ください。

3. 結果

3.1. 基本統計量・信頼性

〈韓国人日本語学習者〉

予備調査テストの基本統計量は、受験者数が53名、テスト項目数が15、平均値が7.62、中央値が9.00、標準偏差が3.72となり、得点分布は図1のようになった。信頼性はクロンバック α 係数を算出したところ、 $\alpha = .85$ となった。言語テストでは0.8以上が望ましいとされているので（中村，2002）、予備調査テストの信頼性は望ましい水準にあると言える。

〈日本人大学生〉

予備調査テストの基本統計量は、受験者数が21名、テスト項目数が15、平均値が11.66、中央値が12.00、標準偏差が2.05となり、得点分布は図2のようになった。信頼性はクロンバック α 係数を算出したところ、 $\alpha = .72$ となった。信頼性が低くなった原因としては、12点、13点に得点者が集まり、合計点の分散が小さくなったためと考えられる。

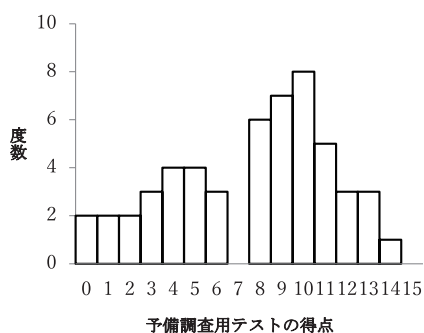


図1 予備テストの得点分布（韓国人日本語学習者）

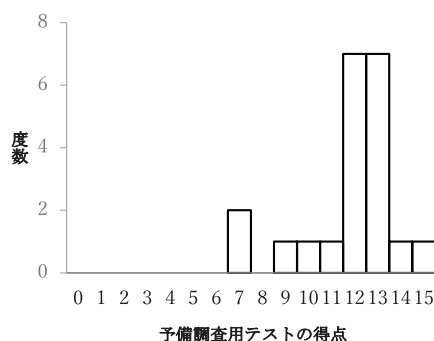


図2 予備テストの得点分布（日本人大学生）

3.2. 項目分析

項目安易値や項目弁別力などの定量的な結果から全体分析し、その後、全体分析で検討すべき点があったテスト項目についてより詳細な個別分析を行う。

1) 全体分析

予備調査テストは、「手紙やメールを読む」の CDS に対応したテスト項目（問題 1～問題 5-3）と「必要な情報を探し出す」の CDS に対応したテスト項目（問題 6～問題 11-3）に分かれている。まず「手紙やメールを読む」の CDS に対応したテスト項目について項目安易値（正答率）¹と項目弁別力（テストの各項目が能力の高い受験と低い受験をどの程度正確に分けられているかを示す指標）²の結果を表 1 に示す。

表 1 項目安易値と項目弁別力（手紙やメールを読む）

	問題番号 (CEFR レベル)	問題 1 (A1)	問題 2 (A2)	問題 3 (A2)	問題 4 (B1)	問題 5-1 (B2)	問題 5-2 (B2)	問題 5-3 (B2)
日 大 本 学 人 生	項目安易値	1.00	1.00	1.00	0.86	0.67	0.81	0.86
	項目弁別力	0.00	0.00	0.00	0.48	0.22	0.66	0.65
韓 学 国 習 人 者	項目安易値	0.85	0.85	0.62	0.64	0.23	0.42	0.58
	項目弁別力	0.42	0.55	0.57	0.77	0.20	0.47	0.68
	項目安易値の差	0.15	0.15	0.38	0.22	0.44	0.39	0.28

表 1 の項目安易値についてまず見る。日本人大学生の項目安易値は 0.67～1.00 の範囲にあり、韓国人日本語学習者は 0.23～0.85 となっていることから、日本人大学生の項目安易値は韓国人日本語学習者より高く、数値の変化の幅が小さい。また両者の項目安易値は連動していることが伺われ、両者の項目安易値をピアソンの相関係数で計算したところ、 $r=.92$ であった。ただ、問題 5-1 (B2) は日本人大学生も韓国人日本語学習者も他の B1 レベルのテスト項目と比べて項目安易値が低い。この点については後ほど検討する。さらに日本人大学生と韓国人日本語学習者の間での項目安易値の差に注目すると、問題 3 (A2) が 0.38、問題 5-1 (B2) が 0.44、問題 5-2 (B2) が 0.39、と差が大きい。問題 5-1 と問題 5-2 は共に B2 レベルの問題であるので、日

¹ 項目安易値（正答率）とは通過率とも言い、「正答者数の受験者全体に対する比率で、全員が誤答であれば 0、全員が正答であれば 1 であり、それ以外の場合は 0 と 1 の間の値をとる。0 に近い値をとる項目は難易度が高く、1 に近い値をとる項目は低く、指標の数値の大小と難易度の高低とが逆転することに注意が必要である。」（野口・大隅, 2012）

² 項目弁別力とは識別力とも言い、「各項目が測定対象とする能力に関して受験者間の水準の違いをどの程度正確に反映できるかを表わし、点双列相関係数（受験者の当該項目の正誤とテスト全体の正答数との相関係数）で表わす。1 に近い方が当該項目が受験者間の能力水準の違いをよく反映し、0 に近いか負の値を示す項目はそのテストが測定目的としている能力を全く反映していないことを表わす。」（野口・大隅, 2012）

本人大学生と韓国人日本語学習者の間に差があることは予想される通りだが、問題3はA2レベルであるにもかかわらず、韓国人日本語学習者の項目安易値が低かったため、差が開いた。この点については後ほど検討する。

表1の項目弁別力について見る。各テスト項目が正答と誤答の2値データであるので、項目弁別力は点双列相関係数で計算する(平井, 2012)。項目弁別力がどのくらいであれば適切かは諸説あるが、点双列相関係数の場合は0.30以上であればよいとする考え方が一般的である(中村, 2002)。0.30を1つの基準とすると、日本人大学生の問題1(A1)、問題2(A2)、問題3(A2)の弁別力が低い。これは日本人大学生全員が正答し、項目安易値が高くなったためである。また、問題5-1(B2)の項目弁別力は日本人大学生が0.22、韓国人日本語学習者も0.20と低いので、この点についても後ほど検討する。

次に「必要な情報を探し出す」のCDSに対応したテスト項目の項目安易値と項目弁別力の結果は表2のようになった。

表2 項目安易値と項目弁別力(必要な情報を探し出す)

	問題番号 (CEFR レベル)	問題 6 (A1)	問題 7 (A2)	問題 8 (A2)	問題 9 (B1)	問題 10 (B1)	問題 11-1 (B2)	問題 11-2 (B2)	問題 11-3 (B2)
日 本 大 学 生	項目安易値	1.00	0.95	1.00	0.76	0.10	0.05	0.81	0.81
	項目弁別力	0.00	0.20	0.00	0.41	0.33	0.27	0.51	0.51
韓 国 人 学 習 者	項目安易値	0.87	0.68	0.79	0.38	0.02	0.17	0.26	0.26
	項目弁別力	0.45	0.64	0.66	0.45	0.20	0.38	0.46	0.55
	項目安易値の差	0.13	0.27	0.21	0.38	0.08	-0.12	0.55	0.55

表2についてもまず項目安易値を見ると、日本人大学生の問題10(B1)が0.10、問題11-1(B2)が0.05、とかなり低い。特に問題11-1(B2)は韓国人日本語学習者の項目安易値0.17よりも低い。また同じく日本人大学生の問題9(B1)もB1レベルにしては0.76と低く、韓国人日本語学習者も項目安易値が低い。問題9(B1)、問題10(B1)、問題11-1(B2)については後ほど検討する。日本人大学生と韓国人日本語学習者の項目安易値をピアソンの相関係数で計算したところ、 $r=.80$ であった。表1の「手紙やメールを読む」に比べ相関係数が下がった原因は、問題11-1(B2)において韓国人日本語学習者の項目安易値が日本人大学生より高かったためと思われる。さらに日本人大学生と韓国人日本語学習者の間で項目安易値の差に着目すると、問題9(B1)が0.38、問題11-2(B2)と問題11-3(B2)がともに0.55、と差が大きい。問題11-2と問題11-3は共にB2レベルの問題であるので、日本人大学生と韓国人日本語学習者の間に差があることは予想される通りだが、問題9はB1レベルでありながら、韓国人日本語学習者の項目安易値が低かったため、差が開いた。


表2の項目弁別力について見る。日本人大学生の問題6(A1)、問題7(A2)、問

題 8 (A2) の弁別力が低い、これは日本人大学生全員もしくはほぼ全員が正答し、項目安易値が高くなったためである。また、問題 11-1 (B2) の弁別力が 0.27 と低い、日本人大学生の正答者が 1 名でほぼ全員が不正解であったことが原因と考えられる。

2) 個別分析

1) の全体分析において要検討としたテスト項目について実際に問題を見ながら分析を行う。「手紙やメールを読む」の CDS に対応したテスト項目（問題 1～問題 5-3）では、問題 3 (A1)、問題 5-1 (B2) が要検討であった。

問題 3 (A1) は以下のような問題であった。検討すべき点は日本人大学生の項目安易値は 1.00 と高いが、韓国人日本語学習者は 0.62 と A2 レベルの問題としては低いことである。

問題 3 この手紙の内容と合っているものはどれですか。選択肢から1つ選んでください。	
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 返信は必要ではない。(正答) 2. 友だちに回答をもらった。 3. 自分の所属を明らかにしていない。 4. わからない

谷他(2020)では韓国人日本語学習者の予備調査テストを分析しており、「問題 3(A2) と問題 4 (B1) は文字量に差があったが（問題 3 は 49 字、問題 4 は 203 字）、項目安易値に差が出なかった。問題 3 の設問が内容一致を問うものであったのに対し、問題 4 は理由を問うものであり、設問のポイントの明瞭さが影響している可能性が考えられる」としている。内容一致の設問の場合、選択肢それぞれに対して正誤の判断をしなければいけないため、難易度が上がった可能性がある。さらに選択肢が有効に機能したのかを確認するため錯乱枝有効度分析を行った。韓国人日本語学習者 53 名中、得点上位群（10 点以上）、得点中位群（9 点～6 点）、得点下位群（5 点以下）に分けて、選択した選択肢を分析した（表 3）。得点下位群 17 名のうち、13 名（76%）が「4.

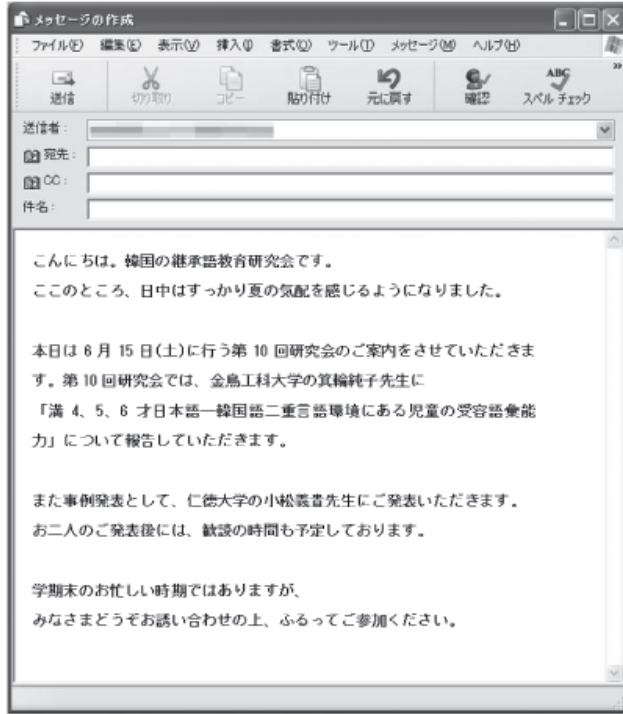
わからない」を選択していることから、本文と選択肢共に使用語彙レベルが高すぎた可能性が考えられる。

表 3 問題 3（韓国人日本語学習者）の錯乱肢有効度分析

	1 (%)	2 (%)	3 (%)	4 (%)	合計
得点上位群 (10点以上)	18 (90%)	1 (5%)	1 (5%)	0 (0%)	20
得点中位群 (9点～6点)	11 (68%)	0 (0%)	2 (13%)	3 (19%)	16
得点下位群 (5点以下)	4 (24%)	0 (0%)	0 (0%)	13 (76%)	17

問題 5-1 (B2) は下のような問題であった。問題 5 は同一の本文に対して 3 つのテスト項目から構成され、提示順に上から問題 5-1 (「1. この手紙は韓国のある研究会からはじめて送られたものだ。」)、問題 5-2 (「2. 今度の研究会では二人 (学生と先生) からの発表がある予定だ。」)、問題 5-3 (「3. 発表では二重言語環境にある児童の受容語彙能力と事例の発表が行われる。」) となっており、本文の内容に合っているかを問う問題である。問題 5-1 は問題 5-2 と問題 5-3 に比べて、項目安易値も項目弁別力も日本人大学生と韓国人日本語学習者ともに低い点が検討課題であった。問題 5-1 は「1. この手紙は韓国のある研究会からはじめて送られたものだ。」となっているが、はじめて送られたものかどうかは「問題 5-1 が正答につながる情報が明示的に例文中になく、類推を要求するため」(谷他, 2020)、難しくなった可能性がある。また項目弁別力に関しては、日本人大学生の場合 13 点以上の得点者 8 名は全員正答であったが 12 点の得点者 7 名の内 3 名が誤答であったこと、韓国人日本語学習者の場合は 14 点～10 点の得点者 20 名中 16 名が誤答となっていたことが数値を下げた原因を考えられる。最後に項目分析とは関係がないが、問題中にある「この手紙・・・」は「メール」と訂正すべきである。

問題5 この手紙からの内容に合っているものには○を、違うものには×をつけてください。



1. この手紙は韓国のある研究会からはじめて送られたものだ。(×)
2. 今度の研究会では二人（学生と先生）からの発表がある予定だ。(×)
3. 発表では二重言語環境にある児童の受容語彙能力と事例の発表が行われる。(○)

「必要な情報を探し出す」のCDSに対応したテスト項目(問題6～問題11-3)では、問題9(B1), 問題10(B1), 問題11-1(B2)が要検討であった。

問題9(B1)は以下のような問題であった。日本人大学生、韓国語日本語学習者ともにB1レベルにしては項目安易値が低い問題である。項目安易値を下げた原因としては、設問の『『正しくないもの』を選んでください』にあると考えられる。根岸(2008)では当てはまらない選択肢を選ばせる問題について「このような問題では、受験者はいずれ『当てはまるもの』を選んでしまうために、いわゆる『できる受験者』でも間違えてしまう確率が高くなる。したがって、当然問題の信頼性も下げてしまう。特別な事情がない限り、このタイプの問題は避けるべきである」としている。問題9についても設問を「正しいもの」を選ばせる形に修正することで、項目安易値が上げられると考えられる。

問題9 次のうち、このチラシの説明として、「正しくない」ものを1つ選んでください。



※著作権の関係でぼかしています

1. 「東京メトロのより道さんぽ」は、当日、雨が降っても行われる。
2. 事前に参加を申し込む必要があり、当選した場合は連絡をもらうことができる。
3. 参加者は、全員同じ時間に出発することになっている。(正答)
4. 分からない

問題10 (B1) は下のような問題であった。日本人大学生でも項目安易値が非常に低い (0.10) ことが検討すべき点であった。これについては、「設問が正答の選択肢を1つ選ぶ形ではなく、正答である選択肢をすべて選択させる形であったこと」(谷他, 2011) が原因と考えられる。母語話者である日本人大学生でも正答を選べていないので、正答の選択肢を1つ選ぶ形にするなど修正が必要である。

問題10 以下の奨学金の案内は日立大学の掲示板に貼ってありました。次の3名の中でこの奨学金に応募できない人を「すべて」選んでください。

資料1

支援対象学生の資格・要件 応募者の資格及び要件は以下のとおりです。在籍校により審査がありますので、詳しくは在籍校に確認してください。

- ・在籍校の正規の課程に在籍する者・学校間の学生交流協定等に基づき、派遣先校が受入を許可する者
- ・学業成績が優秀で、人物等に優れている者
- ・経済的理由により自費での留学が困難な者・留学期間終了後、在籍校に戻り学業を継続する者または在籍校の学位を取得する者
- ・派遣プログラム参加にあたり、必要な査証を確実に取得し得る者
- ・派遣プログラム参加にあたり、他団体等から派遣プログラム参加のための奨学金を受ける場合、他団体等からの奨学金の支給月額合計額が、本制度による奨学金月額を超えない者

資料2

海外留学支援制度（協定派遣）の奨学金

月額：指定都市：10万円
甲地区：8万円
乙地区：7万円
丙地区：6万円

詳細は右にある国・地域コード表を参照してください。

海外留学支援制度(協定派遣・協定受入) 国・地域コード表

2019年度より追加した国は赤字にてあります。

国・地域コード	国・地域名	地域区分	主な都市
アジア	100 台湾	丙	指定
101	インドネシア	丙	
102	ポーランド	丙	
103	ブルネイ	丙	
104	カンボジア	乙	
105	中国	丙	北京、上海
106	韓国	丙	
107	インド	乙	
108	インドネシア	乙	ジャカルタ
109	大韓民国	乙	ソウル
110	ラオス	乙	
111	マカオ	丙	
112	マレーシア	乙	クアラルンプール
113	モンゴル	丙	
114	ミャンマー	乙	ヤンゴン
115	ネパール	丙	
116	パキスタン	丙	
117	フィリピン	乙	マニラ
118	シンガポール	指定	シンガポール
119	スリランカ	丙	
120	タイ	乙	バンコク
121	ベトナム	乙	

1. 所属：日立大学工学部3年生，名前：小林紀子，希望留学地：台湾，他団体からの奨学金（1か月）：8万円（正答）
2. 所属：日立大学交換留学生，名前：ミッシェル・スワン，希望留学地：韓国，在籍校からの奨学金（1か月）：5万円（正答）
3. 所属：日立大学大学院2年，名前：田中富太郎，希望留学地：マレーシア，他団体からの奨学金（1か月）：6万円
4. 分からない

問題 11-1 (B2) は下のような問題であった。この問題は日本人大学生も韓国人日本語学習者も項目安易値が低く、特に日本語学習者の項目安易値が韓国人日本語学習者より低いことが検討課題である。問題 11 は同一の本文に対して3つのテスト項目で構成され、提示順に上から問題 11-1 (「1. 安倍政権は、翁長知事による埋め立て承認取り消し処分を否定している。」)、問題 11-2 (「2. 代執行は、都道府県知事による行政手続きに違反がある場合、政府が代わりに執行することである。」)、問題 11-3 (「3. 政府は、沖縄との接点を探り、歩み寄ろうとしている。」) となっており、本文の内容と合致しているかどうかを問う問題である。問題 11-1 は問題 11-2 と問題 11-3 に比べて、日本人大学生の項目安易値が低い。問題 11-1 は「1. 安倍政権は、翁長知事に

よる埋め立て承認取り消し処分を否定している。」となっており、否定という動作が完了していると解釈できる。一方、本文の関係個所を確認すると、翁長知事が埋め立て承認取り消し処分を否定するため、手続きに入ることを決定したとあり、これから埋め立て承認取り消し処分を否定するための手続きに入ることを決めただけで、まだ否定という動作が完了していないと解釈できるため、「×」が正答である。ただ、日本大学生の項目安易値の低さからも、問題を修正する必要があると思われる。

問題11 本文の内容と合っているものには○、合っていないものには×を書いてください。

安倍政権は、沖縄県・東京都大田区で行われた辺野古埋め立て承認が違法、無効だと認定し、埋め立て承認を取り消し処分を決定した。代執行などの手続きに入ることを決めた。翁長知事による承認取り消し処分を一時的に無効にする執行停止も決めた。沖縄との対決一辺倒の政治の姿勢に強い疑問を感じる。代執行は、都道府県知事による行政手続きに違反がある場合など、政府が代わりに執行することだ。地方自治法にもとづいている。

この制度のもと、国と自治体は、知事に埋め立て承認取り消し処分の決定を勧告、強制し、それでも知事が応じなければ最終に強制する。国が強制すれば、知事による取り消し処分を取り消すことができる。

沖縄の基地問題では過去にも同じようなことがあった。1997年、米軍基地の権利移転に必要な代執行を認めず当時の大田区長知事が拒否したため、国が代執行を強行して建設。近年、政府側が強制し、熊本県大田原市が代執行をした。今回、代執行の手続きにまで踏み込んだ理由について、政府は、知事による取り消し処分は「違法」であり、国と県との関係性が悪化するなど、国と自治体との重大な衝突が生じるからだと説明する。

知事らが承認を取り消したのが13日。対抗措置として、事業者の沖縄県事務所は、国に代執行不承認を通告し、取り消し処分の執行停止も求めた。執行停止は認められ、国側はオーラング調査を開始できる。

だが、代執行不承認方法は、国側の権利を侵害するため、国が代執行に不協を申し立てることを認めるのが本来の趣旨だ。執行停止が認められても、これだけでは、国は、国の組織員とのみ手続的な方法だと批判される。そのため、政府は代執行にまで踏み込んだのかも知れない。

いずれにしても政府は、知事の取り消し処分を違法と断じ、代執行という強制的な手段に訴えることにした。沖縄との接点を探り、歩み寄ろうというつもりはないのだろうか。

それどころか政府は、地元に対し調査など先工作に出ている。

政府は、最終的に代執行を認める辺野古埋め立て地区の区画を最終的に認め、地域振興費用を調査支出することを示した。賛否に反対する県や市の協議中である。

区画という行政権を持たない相手に、要望に応じ十分に満足されない方を出すというのだ。

なにより納得しないやり方にある。辺野古埋め立て問題は、反対の強い民意と国の政府との乖離（かいり）をどう埋めるかという高度な政治問題だ。真諦の手法を認めて取り消し、力づくで埋めるだけでは解決しない。

（毎日新聞、社説：辺野古埋め立て 力づくでは解決しない毎日新聞、2015年10月10日）

※著作権の関係でぼかしを入れています

1. 安倍政権は、翁長知事による埋め立て承認取り消し処分を否定している。(×)
2. 代執行は、都道府県知事による行政手続きに違反がある場合、政府が代わりに執行することである。(○)
3. 政府は、沖縄との接点を探り、歩み寄ろうとしている。(×)

3.3. 解答行動に関するアンケート

予備調査テスト直後に受験者にそれぞれのテスト項目をどのように解答したかを尋ねるアンケートを実施した。時間の関係上、問題5と問題11は複数のテスト項目から構成されるが、テスト項目単位ではなく問題単位（例えば、問題5-1、5-2、5-3と3つのテスト項目からなるが、問題5として1つとして見る。）で回答してもらった。

谷他(2020)では韓国人日本語学習者を得点上位群(17名³⁾と得点下位群(17名)に分けて、アンケート結果を示しているが、本稿は母語話者の日本人大学生との比較のため、韓国人日本語学習者は得点上位群に限定する。「手紙やメールを読む」(問題1～5)(表4)と「必要な情報を探し出す」(問題6～11)(表5)に分けて、日本人大学生と韓国人日本語学習者(得点上位群)の結果を並べて示す。

表4 「手紙やメールを読む」(問題1～5)の解答行動

	日本人大学生					韓国人日本語学習者(得点上位群)				
	問題1 (A1)	問題2 (A2)	問題3 (A2)	問題4 (B1)	問題5 (B2)	問題1 (A1)	問題2 (A2)	問題3 (A2)	問題4 (B1)	問題5 (B2)
1) 質問に現れた単語と全く同じ単語を文章内で見つけようとした。	3 (14%)	2 (10%)	4 (19%)	4 (19%)	5 (24%)	4 (24%)	4 (24%)	5 (29%)	4 (24%)	5 (29%)
2) 質問に現れた単語と類似または関連する単語を文章内で見つけようとした。	10 (48%)	6 (29%)	9 (43%)	4 (19%)	10 (48%)	4 (24%)	5 (29%)	7 (41%)	4 (24%)	<u>6</u> (35%)
3) 筆者が重要であると示した部分を文章から探した。	1 (5%)	2 (10%)	5 (24%)	1 (5%)	4 (19%)	4 (24%)	<u>6</u> (35%)	8 (47%)	7 (41%)	7 (41%)
4) 文章の主要部分(冒頭部分や結論)を読んだ。	6 (29%)	5 (24%)	3 (14%)	9 (43%)	4 (19%)	8 (47%)	<u>6</u> (35%)	5 (29%)	8 (47%)	8 (47%)
5) 質問中の難しい言葉の意味を理解しようとした。	0 (0%)	1 (5%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (5%)	1 (6%)	1 (6%)	3 (18%)	4 (24%)	5 (29%)
6) 文章中の難しい単語の意味を理解しようとした。	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (5%)	2 (12%)	1 (6%)	3 (18%)	4 (24%)	4 (24%)
7) 自分の語彙知識を使った。	6 (29%)	4 (19%)	1 (5%)	0 (0%)	3 (14%)	<u>6</u> (35%)	<u>6</u> (35%)	<u>6</u> (35%)	4 (24%)	<u>6</u> (35%)
8) 自分の文法知識を使った。	2 (10%)	3 (14%)	2 (10%)	0 (0%)	2 (10%)	5 (29%)	3 (18%)	4 (24%)	3 (18%)	4 (24%)
9) 文章全体やその一部をゆっくりと慎重に読んだ。	0 (0%)	5 (24%)	4 (19%)	9 (43%)	9 (43%)	4 (24%)	3 (18%)	5 (29%)	7 (41%)	<u>6</u> (35%)
10) 文章中で関連している部分をもう一度読んだ。	3 (14%)	3 (14%)	5 (24%)	9 (43%)	9 (43%)	3 (18%)	1 (6%)	3 (18%)	<u>6</u> (35%)	<u>6</u> (35%)
11) 文章構成の知識を利用した。	1 (5%)	0 (0%)	2 (10%)	4 (19%)	4 (19%)	2 (12%)	2 (12%)	4 (24%)	5 (29%)	4 (24%)
12) 私がすでに持っている知識と文章内の情報を関連付けようとした。	10 (48%)	6 (29%)	3 (14%)	2 (10%)	2 (10%)	4 (24%)	4 (24%)	<u>6</u> (35%)	4 (24%)	3 (18%)
13) どれにも該当しない。	0 (0%)	2 (10%)	0 (0%)	1 (5%)	0 (0%)	1 (6%)	0 (0%)	1 (6%)	0 (0%)	0 (0%)

注：日本人大学生は10以上(全体で48%以上の使用頻度)を網掛け、8～9(全体で38%～43%の使用頻度)を太字、7(全体で33%の使用頻度)を下線にした。韓国人日本語学習者は8以上(全体で47%以上の使用頻度)を網掛け、7(全体で41%の使用頻度)を太字、6(全体で35%の使用頻度)を下線にした。

³ 谷他(2020)では項目弁別力を得点上位群[得点上位33%]と得点下位群[得点下位33%]の項目安易値の差で算出したため、得点上位群・下位群ともに17名になっている。

表5 「必要な情報を探し出す」(問題6～11)の解答行動

	日本人大学生						韓国人日本語学習者(得点上位群)					
	問題 6(A1)	問題 7(A2)	問題 8(A2)	問題 9(B1)	問題 10(B1)	問題 11(B2)	問題 6(A1)	問題 7(A2)	問題 8(A2)	問題 9(B1)	問題 10(B1)	問題 11(B2)
1) 質問に現れた単語と全く同じ単語を文章内で見つけようとした。	1(5%)	<u>7</u> (33%)	11(52%)	<u>7</u> (33%)	6(29%)	9 (43%)	5(29%)	9(53%)	<u>6</u> (35%)	5(29%)	5(29%)	7 (41%)
2) 質問に現れた単語と類似または関連する単語を文章内で見つけようとした。	4(19%)	5(24%)	10(48%)	12(57%)	9 (43%)	11(52%)	4(24%)	3(18%)	4(24%)	5(29%)	5(29%)	8(47%)
3) 筆者が重要であると示した部分を文章から探した。	0(0%)	1(5%)	0(0%)	3(14%)	5(24%)	8 (38%)	<u>6</u> (35%)	5(29%)	8 (47%)	<u>6</u> (35%)	<u>6</u> (35%)	5(29%)
4) 文章の主要部分(冒頭部分や結論)を読んだ。	1(5%)	1(5%)	4(19%)	5(24%)	4(19%)	2(10%)	7 (41%)	5(29%)	<u>6</u> (35%)	<u>6</u> (35%)	<u>6</u> (35%)	7 (41%)
5) 質問中の難しい言葉の意味を理解しようとした。	0(0%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)	1(5%)	0(0%)	2(12%)	3(18%)	2(12%)	3(18%)	3(18%)	3(18%)
6) 文章中の難しい単語の意味を理解しようとした。	0(0%)	0(0%)	1(5%)	0(0%)	1(5%)	2(10%)	2(12%)	2(12%)	3(18%)	4(24%)	5(29%)	5(29%)
7) 自分の語彙知識を使った。	6(29%)	3(14%)	3(14%)	2(10%)	1(5%)	1(5%)	5(29%)	5(29%)	5(29%)	5(29%)	5(29%)	5(29%)
8) 自分の文法知識を使った。	0(0%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)	1(5%)	5(29%)	4(24%)	2(12%)	4(24%)	4(24%)	4(24%)
9) 文章全体やその一部をゆっくりと慎重に読んだ。	0(0%)	4(19%)	4(19%)	6(29%)	5(24%)	<u>7</u> (33%)	3(18%)	5(29%)	4(24%)	4(24%)	8(47%)	8(47%)
10) 文章中で関連している部分をもう一度読んだ。	0(0%)	9 (43%)	4(19%)	5(24%)	6(29%)	9 (43%)	3(18%)	<u>6</u> (35%)	4(24%)	5(29%)	7 (41%)	<u>6</u> (35%)
11) 文章構成の知識を利用した。	0(0%)	1(5%)	0(0%)	1(5%)	0(0%)	3(14%)	2(12%)	3(18%)	3(18%)	2(12%)	4(24%)	3(18%)
12) 私がすでに持っている知識と文章内の情報を関連付けようとした。	9 (43%)	2(10%)	2(10%)	1(5%)	1(5%)	2(10%)	3(18%)	3(18%)	4(24%)	7 (41%)	4(24%)	5(29%)
13) どれにも該当しない。	5	3(14%)	0(0%)	1(5%)	2(10%)	1(5%)	3(18%)	1(6%)	2(12%)	2(12%)	3(18%)	4(24%)

注：日本人大学生は10以上(全体で48%以上の使用頻度)を網掛け、8～9(全体で38%～43%の使用頻度)を太字、7(全体で33%の使用頻度)を下線にした。韓国人日本語学習者は8以上(全体で47%以上の使用頻度)を網掛け、7(全体で41%の使用頻度)を太字、6(全体で35%の使用頻度)を下線にした。

「手紙やメールを読む」のCDSに対応したテスト問題(問題1～問題5)(表4)において、日本人大学生と韓国人日本語学習者とで共通して使用頻度が高い項目を見ると、「2) 質問に現れた単語と類似または関連する単語を文章内で見つけようとした。」がある。単語を拾っていくような読み方をしていると推測される。また「9) 文章全体やその一部をゆっくりと慎重に読んだ。」、「10) 文章中で関連している部分をもう一度読んだ。」がB1レベル以上の問題で使用頻度が高い。B1レベル以上になると、本文が長くなるためと考えられる。一方、韓国人日本語学習者のみ使用頻度が高い項目としては、「3) 筆者が重要であると示した部分を文章から探した。」、「4) 文章の主

要部分（冒頭部分や結論）を読んだ。],[7] 自分の語彙知識を使った。」がある。きっちり読んでいこうとする姿勢や語彙知識の使用は認知的な負担がかかる外国語学習者特有のものかもしれない。

「必要な情報を探し出す」の CDS に対応したテスト問題（問題 6～問題 11）（表 5）において、日本人大学生と韓国人日本語学習者とで共通して使用頻度が高い項目を見ると、「1）質問に現れた単語と全く同じ単語を文章内で見つけようとした。」と「2）質問に現れた単語と類似または関連する単語を文章内で見つけようとした。」がある。これは「必要な情報を探し出す」の CDS に対応したテスト項目であることを考えると、望ましい解答行動ともいえる⁴。また「手紙やメールを読む」と同じように「9）文章全体やその一部をゆっくりと慎重に読んだ。」「10）文章中で関連している部分をもう一度読んだ。」が B1 レベル以上の問題で使用頻度が高い。一方、韓国人日本語学習者のみ使用頻度が高い項目としては「3）筆者が重要であると示した部分を文章から探した。」「4）文章の主要部分（冒頭部分や結論）を読んだ。」「7）自分の語彙知識を使った。」であった。

谷他（2020）では韓国人日本語学習者の得点下位群は「どの問題であっても「13）どれにも該当しない。」を選択する協力者が多い」としている。今回の分析から韓国人日本語学習者の得点上位群になると、一部の解答行動は日本人大学生と近いことが明らかになった。

4. まとめと今後の課題

本稿では日本人大学生 21 名を対象に 2018 年 12 月に実施した予備調査について、谷他（2020）で報告した韓国人日本語学習者（大学生）53 名の結果と比較しながら、その分析結果を報告した。今後は予備調査の結果を踏まえ、テスト項目の修正・改善等を行い、別の下位尺度を使ってのテスト項目開発・予備調査の実施などを行ってきたい。

謝辞

日韓の調査協力者の方に感謝申し上げます。本研究は JSPS 科研費基盤研究（C）18K00722「CEFR 読解 CDS に基づいた問題仕様書の開発と妥当性の検証」の助成を受けたものです。

参考文献

- 谷誠司・宮崎佳典・安志英・元裕璟（2020）「CEFR 読解指標に基づく日本語能力テスト開発の試み」『常葉大学大学院国際言語文化研究科研究紀要』, (1) pp.43-54.
中村洋一（2002）『テストで言語能力は測れるか - 言語テストデータ分析入門 -』桐原

⁴ ただ、「2）質問に現れた単語と類似または関連する単語を文章内で見つけようとした。」については、問題 1 から問題 5 までの回答数を集計したところ、日本人大学生の使用頻度は 51 と高いが、韓国人日本語学習者は合計で 29 にとどまり、違いが見られる。

書店

日本語 CEFR 読解指標 (CDS) 推定支援 Web アプリケーション

(<http://mya-lab1.cs.inf.shizuoka.ac.jp/~hirakawa/index.php> 参照日 :2021/1/5)

野口裕之・大隅敦子 (2012) 「統計」(近藤安月子・小森和子編『研究社日本語教育事典』研究社)

根岸雅史 (2008) 「多肢選択式テスト作成の心得」Teaching English Now vol(11) pp.14-15. (https://tb.sanseido-publ.co.jp/english/newcrown/pdf/ten011/ten_vol11_08.pdf 参照日 :2021/1/5)

平井明代編著 (2012) 『教育・心理系研究のためのデータ分析入門』東京書籍

(2021年1月12日 受理)